



温泉掘削工事

石油ボーリングの機械と技術で掘る

大地に挑む

地球の中心に向かって深度2,000m掘る、そして温泉を出す。2ヶ月ばかりの工事ですが、分刻みで大地とのかけひきがあります。ある時は戦い、ある時は妥協する。大きい力と優れた技術、豊富な経験がものを云う世界です。

地下300mのことが月の表面のことほどもわからないのが現状です。わからないところを掘り進むわけですから何があっても対応できる余裕が必要で、これが掘ることについての総合力です。

掘削についてのすべてのノウハウは世界の石油ボーリング業界内に蓄積されています。それをそっくり日本で温泉開発のために取り入れてみましたが、それでも大地に挑むことは容易ではありません。

『それが実感です。』

医療・福祉・健康増進・地域社会の活性化等々に温泉の必要性が広く望まれている今日、温泉湧出に向けて我々の使命は重いものと感じております。

ケーシング材料

温泉井戸用ケーシングは、全てAPI規格ケーシング(アメリカ石油規格)を使用します。

写真のように、肉厚のカップリング付きネジ込み接続のため、利用中の切断事故がありません。



[検層]



[ビット]



[ケーシング挿入]



[ケーシングパイプ]

温泉井戸の条件

火山系温泉地帯とは異なり、熱源に乏しい地域での温泉開発では、深く掘って温度を上げる以外に高温の温泉は期待できません。

いい温泉を出すための井戸構造はどうあるべきか、難しいテーマです。

それでも、経験から言い切れる点はいくつかあります。

- ①温度をあげるために深く掘ること
- ②大きい径の孔を掘ること
- ③ケーシングをしっかりと孔内に設置すること
- ④速く掘ること

あたりまえのことですが、温泉湧出のための必要条件です。

